

< 社会教育 >

「授業で使える ネットを通した正しいコミュニケーションの手法を学ぼう」

小学校、中学校の先生方が参加され、最近の子どもたちのネットを取り巻く現状や具体的な指導方法を学びました。

日時：令和元年8月5日（月）

場所：鳥取県東部庁舎 202会議室

【ねらい】

子ども達のネットに関する現状を知るとともに、SNS上でのトラブルや使いすぎによる依存症などの未然防止に活用できる情報モラル教育の手法を学ぶ。

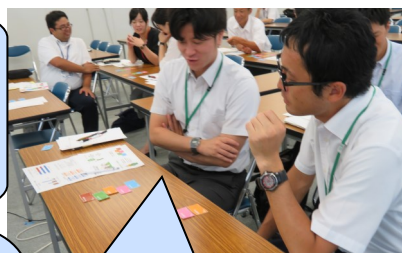


現在の子どもたちのインターネットの利用状況やネット利用に伴うトラブルの現状を学びました。小学生・中学生・高校生がインターネットを利用する目的やそれぞれのスマートフォン専有率など、発達段階によって違いがあることに気づきました。

後半は、LINEの教材を使い「ちがい」をテーマに、自分にとって使いすぎだと思う時間の違い、メール上での捉え方の違いなど、参加者同士が意見交換しながら進めました。

子どもたちを取り巻くネットの現状

インターネットの利用状況や利用内容、子どもたちの中で現在流行っているアプリなども学びました。子どもたちの興味関心がどこにあるのかを知る手掛かりとなりました。



夜遅くにメッセージを送ってくる

1 使いすぎ編



すぐにメッセージが返ってくる

2 使いすぎ編



友達と話している時にスマホを触っている

3 使いすぎ編



アプリで毎月お金を使っている  
(メッセージ、音楽、ゲーム)

4 使いすぎ編



話題がいつもネットやゲームの話

5 使いすぎ編



写真を掲載すると

写真を公開することの危険はもちろん、写真をグループラインに掲載することで、どのような問題が起き、相手によって捉え方がどう違うのかを考えました。

誤解をなくすために

人によって言葉やイラストの捉え方が違うこと、ネット上では相手の表情や雰囲気やわからないので誤解を招きやすいことを実感しました。

使い過ぎについて

どのような状態になったら使い過ぎなのか考えました。それぞれが考えましたが、話し合ってみると参加者同士で使い過ぎだと思う基準が違っていることに気づきました。



【参加者の感想】

- 自分と人との考え方の違いが体感でき、とても自然に理解できました。
- 感じ方や考え方の違いは、情報モラルだけでなく人権意識にもつながっているもので、日々の授業の中で少しずつ教えていきたいと思いました。
- 情報モラルの問題は、次々と新しいものが出るので、もっと注意していかないといけないと思いました。
- ライン（特にグループライン）でのコミュニケーションの難しさを実感しました。文字だけのコミュニケーションが誤解を生みやすいことや返信の言葉の難しさなども含めて、子どもたちに考えさせたいと思いました。
- 教員が思っている以上に、子ども同士がライン等でつながっていることも多いので、家庭と連携しながら考えていきたいと思いました。